「三宝通信」法話

浄土宗 天上山 大念寺
住職 大島 祥明

「死んでも変わらないからこそ、いまを大切に生きる」

死んで、終わりではありません。殺して、終わりではありません。死んでも、心は変わりません。悔いなく、未練なく、恨みなく、恨まれることもなく、生きること。死んでも、心はいまのまま。だから、この「いま」が大切なのです。

死んだ人は、無に帰してしまうのではありません。死後も本人は、ずっとつづくのです。そして、人間の本質は変わることはありません。やさしい人は死んでもやさしい。手のかかる人は死んでも手がかかる。面倒見のいい人は、死んでも面倒見がいい。子孫を気にしているから、子孫を護ろうとします。

死んでもその人の本質が変わらないということは、**死ぬ直前の心のありようがずっとつづく**ということです。恨みつらみを残し、執着いっぱいで死んだとしたら、その心はずっとつづくのです。そうなると、**死にぎわが大事**になってきます。

だれしも安らかで悔いのない臨終を迎えたいものです。けれども、死にぎわは予測できないわけです。ひょっとしたら、今日のうちに、なんらかの事故にまきこまれて死んでしまうかもしれません。

だから、常の生き方、**日常の暮らし、普段の心のありようがいちばん大切**なのです。

●PHP研究所刊『死んだらおしまい、ではなかった』より。